

江戸東京博物館

NEWS

E D O - T O K Y O M U S E U M N E W S

江戸東京
博物館
ニュース

Vol. 92



特別展

レオナルド・ダ・ヴィンチ

—天才の挑戦

企画展

歴史をつなぐ天璋院の用筆筒

日伊国交樹立150周年記念 特別展

レオナルド・ダ・ヴィンチ

— 天才の挑戦 —

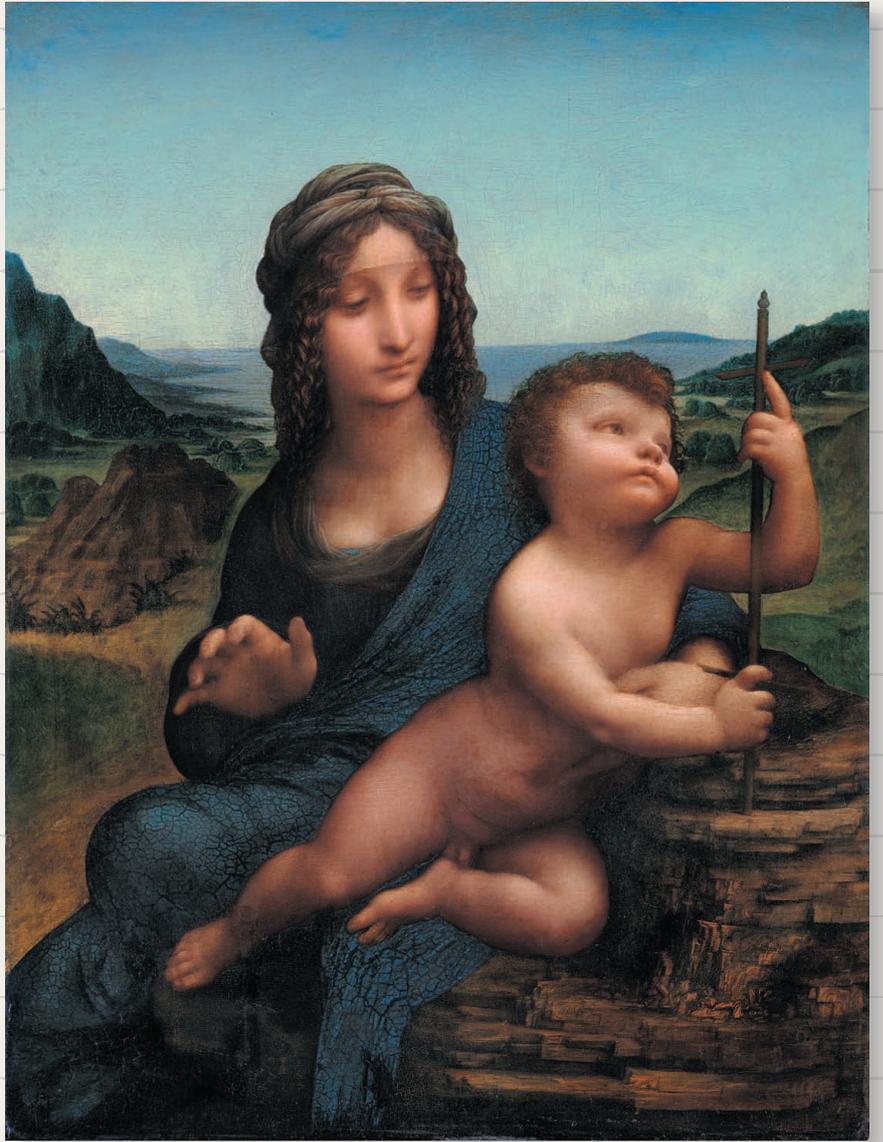
LEONARDO DA VINCI

— BEYOND THE VISIBLE —



ここが
POINT

レオナルド
円熟期の傑作



レオナルド・ダ・ヴィンチ《糸巻きの聖母》
1501年頃、バクルー・リビング・ヘリテージ・トラスト
©The Buccleuch Living Heritage Trust

日伊国交樹立150周年記念特別展
「レオナルド・ダ・ヴィンチ
— 天才の挑戦 —」

日本とイタリアの国交樹立150周年を記念し、イタリアが生んだ天才レオナルド・ダ・ヴィンチの展覧会を開催いたします。

レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452-1519年)は、イタリアのヴェンチ村で生まれ、フィレンツェで修業時代を過ごし、その後はイタリア各地

で活躍しました。晩年にはフランス国王の宮廷に招かれ、フランス中部のアンボワーズ郊外で67年の生涯を閉じます。絵画や彫刻だけでなく舞台装置の設計に携わり、解剖学、地質学、水力学などに関心を示し、さらには音楽家・軍事技師・建築家(都市計画や治水事業までも含む)としても活躍したレオナルドは「万能人」として著名な人物です。彼はその生涯を通じて、自身の研究や思想を膨大な数の素

描や手稿に残しました。芸術が、より良い社会の実現に結びつくと考え、研究成果を絵画に表そうとしたのです。

本展では、そのような観察を通じて真理に近づこうとしたレオナルドの挑戦を日本初公開の円熟期の油彩画《糸巻きの聖母》と直筆ノート『鳥の飛翔に関する手稿』を中心に紹介します。このほか、花や子どもを観察した日本初公開の真筆素描7点(うち1点は弟子との共作)、レオナルド派による日本初公開の珠玉の絵画、神話化・伝説化されたレオナルドの生涯を表した版画など約70点を加え、天才の挑戦を体系的に展観します。

ダ・ヴィンチの手稿

『鳥の飛翔に関する手稿』
イタリアの至宝が日本初公開！

人間の飛行に関する実験方法から実現の予言にいたるまで、様々な研究の図解入り直筆ノート。鳥の飛翔・解剖学・建築・水力学の研究のほか、藁や鶏の購入費用メモなどが取められています。空を飛ぶ鳥の研究こそが、飛行に成功する唯一の道だと確信し、人間の限界を克服しようとした挑戦の軌跡が記されています。レオナルドがミラノを離れてフィレンツェに滞在していた1505年に記されたもので、大きさ21.3cm×15.4cm、20紙葉からなります。

information

特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ
—天才の挑戦—

会期 2016年1月16日(土)~4月10日(日)

休館日 毎週月曜日、3月22日(火)
(ただし、1月18日、3月21日・28日は開館)

開館時間 9:30~17:30
(土曜日は19:30まで)

※入館は閉館の30分前まで

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展 常設展共通券
一般	1,450円 (1,160円)	1,640円 (1,310円)
大学生 専門学校生	1,160円 (930円)	1,310円 (1,040円)
中学生(都外) 高校生・65歳以上	730円 (580円)	820円 (650円)
小学生 中学生(都内)	730円 (580円)	なし

※()内は20名以上の団体料金。

※小学生と都内在住・在学の中中学生は、常設展観覧料が無料のため、共通券はありません。

※次の場合は観覧料が無料です。未就学児童。
身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。

主催 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都江戸東京博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション

後援 外務省、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア大使館、プリティッシュ・カウンスル、スポーツニッポン新聞社

特別協賛 大和ハウス工業

協賛 損保ジャパン日本興亜、日本写真印刷、みずほ銀行

協力 全日本空輸、アリタリアーイタリア航空

特別協力 レオナルド・ダ・ヴィンチ理想博物館

監修 アレッサンドロ・ヴェツツォージ
(レオナルド・ダ・ヴィンチ理想博物館館長)

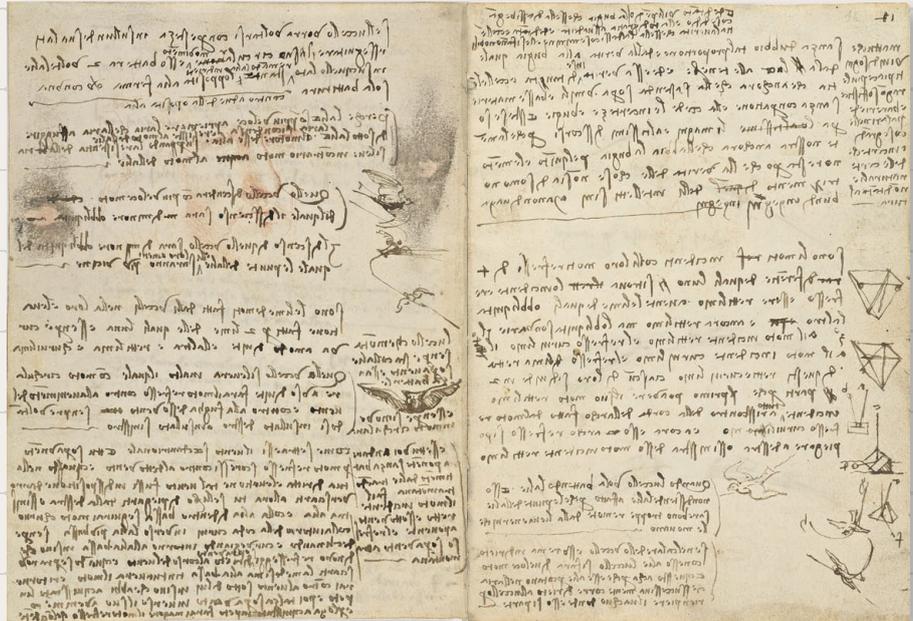
日本側監修 斎藤 泰弘(京都大学名誉教授)

学術協力 田辺 清(大東文化大学教授)

チケット販売 江戸東京博物館、主要プレイガイド
(手数料がかかる場合があります)。

ここが
POINT

直筆の研究ノート
日本初公開



レオナルド・ダ・ヴィンチ『鳥の飛翔に関する手稿』

第10紙裏と第11紙葉表

1505年、トリノ王立図書館

©Biblioteca Reale

ここが
POINT

子供に注がれた
レオナルドの
視線



レオナルド・ダ・ヴィンチ《子どもの研究》

1502-1503年、アカデミア美術館素描版画室
Su concessione del Ministero per i Beni e le Attività Culturali-Venezia
Gallerie dell'Accademia

繊細な手の動きを
余すところなく描く

ここが
POINT

わずか15点にも満たないレオナルドの現存絵画のうちの1点が日本初

イタリア屈指のレオナルド素描の所蔵点数を誇るヴェネツィアの

ダ・ヴィンチの絵画
《糸巻きの聖母》
希少なダ・ヴィンチ絵画の1点

ダ・ヴィンチの素描
《珠玉の素描群》、日本初公開!

一時はナポレオンが所有し、その後は盗難と散逸の運命をたどりつつ、現在、奇跡的に全紙葉がトリノ王立図書館に所蔵されています。

公開になります。英国貴族バクルー公爵が代々所蔵する傑作で、英国外に出品されるのは実に77年ぶりになります。名画《モナリザ》へつながる技法の絵画として注目されます。

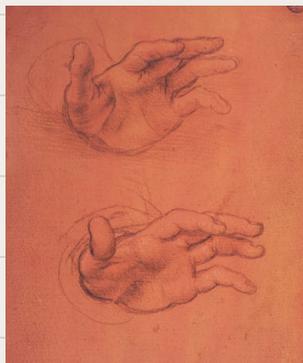
ここが
POINT

自然を直感と
観察で表現



レオナルド・ダ・ヴィンチ《花の研究》

1505年頃、アカデミア美術館素描版画室
Su concessione del Ministero per i Beni e le Attività Culturali-Venezia Gallerie dell'Accademia



レオナルド・ダ・ヴィンチと弟子《手の研究》

1495年頃、アカデミア美術館素描版画室
Su concessione del Ministero per i Beni e le Attività Culturali-Venezia Gallerie dell'Accademia

アカデミア美術館素描版画室より、花や子どもを描いた真筆素描7点(うち1点は弟子との共作)が日本初公開になります。「素描は極めて卓越しているのだから自然の作品を研究するのではなく、自然が生み出す以上の無数のものを研究する」(『絵画の書』133頁)とした、レオナルドの絵画制作の本質がうかがえる素描作品です。

常設展示室がパワーアップして新装開展!!

えどはく 第3回 解体新書

6Fフロアマップ

幕末の江戸城—本丸・二丸御殿—

体験展示「松の廊下」

江戸城本丸 大広間
松の廊下・白書院

寛永の大名屋敷

寛永の町人地

日本橋

江戸城
本丸御殿の
模型が誕生!!



江戸東京博物館
公式キャラクター ギボちゃん

5階と6階が吹き抜けて造られた常設展示室の顔となる、原寸大の日本橋。その向こうには綿密な調査研究を踏まえて復元された模型が並んでいます。

E1 江戸城と町割り

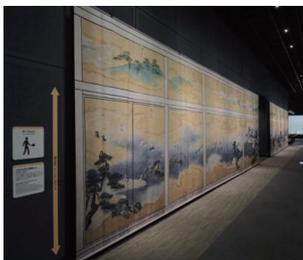


「幕末の江戸城—本丸・二丸御殿—」模型

拡大!



本丸御殿の部分



体験展示「松の廊下」



「江戸城本丸 大広間・松の廊下・白書院」模型

模型に見る、江戸の町のスケール感

常設展示室の入口、「江戸城と町割り」コーナーは、実物大の日本橋から始まります。都市江戸の象徴である日本橋の北半分を縮尺1/1で復元。渡ってみて、まずは江戸の人々の気持ちになってみてください。その先には、寛永時代の町人地や大名屋敷を縮尺1/30で復元した模型が並びます。実物大の日本橋の幅は約8m。町人地模型の中にある日本橋の幅は約27cm。縮尺1/30の模型の規模が、大体おわかりいただけるかと思えます。

さて、今回のリニューアルにあたり、このコーナーでは江戸城に関する模型を新設しました。直径約6mの円形の中に縮尺1/200で作成した「幕末の江戸城—本丸・二丸御殿—」模型。名前の通り本丸御殿を中心に復元しました。模型の規模が同じ場合、縮尺1/30ならば、町人地では町並みの一部、大名屋敷ではその全体が再現できます。ところが江戸城では、御殿の再現だけで1/200。もし縮尺1/30で御殿模型を作った場合、直径は約40mとなります。このことから江戸城の巨大さがうかがえます。実は、町人地や大名屋敷の模型と同じくかなりの大きさで江戸城を模型とした場合、再現できるのは松の廊下付近がせいぜいです。

御殿模型に隣接して、既存の「江戸城 本丸 大広間・松の廊下・白書院」模型(1/30)が展示してあります。縮尺1/30で見た、江戸城松の廊下、大名屋敷、町人地を比較してみてください。さらに、松の廊下の襖絵などの小下絵をほぼ実寸大に合わせて拡大したパネルを御殿模型の近くに展示しました。1/200の御殿、1/30の松の廊下、実寸大の襖絵と順にご覧ください。より一層、江戸城の大きさが実感できます。

様々な模型を相互に比較して江戸の町のスケール感を体験する。それがこのコーナーの楽しみ方の一つとなっております。

(学芸員 田原 昇)

天璋院
ゆかりの
品々に注目!



常設展示室

企画展

場所 5F 企画展示室

歴史をつなぐ 天璋院の用筆筒

2016年1月2日(土)～2月21日(日)

当館と公益財団法人徳川記念財団は、毎年、企画展を共催しております。今回のテーマは「歴史をつなぐ天璋院の用筆筒」です。

用筆筒とは身近に置かれ、貴重品から身の回りの小物、手紙などを入れた小型の筆筒です。本展で取り上げる梨子地なしじ牡丹蝶尾長鳥文おながどりもんまえながとり蒔絵用筆筒(徳川記念財団所蔵)は、これまで「天璋院の用筆筒」として紹介され、13代將軍継室となった天璋院の愛用品や由緒書など、その収納品の一部を展示してきました。しかし、この用筆筒には、近衛忠熙・忠房、松平齊民、16代当主徳川家達をはじめ、天璋院と公私にわたって関係の深い人物がしたためた書状や短冊類、また天璋院逝去後の徳川宗家夫人の所用品も含まれています。

本展では、この用筆筒の歴史的性格を読み解き、江戸から東京へと移りゆく激動期における徳川將軍家の動向を証言する一つの資料群として、初めてその全貌を紹介いたします。



梨子地牡丹蝶尾長鳥文蒔絵用筆筒
江戸時代末期 19世紀
徳川記念財団所蔵

伝統芸能フォーラム 開催のお知らせ

当館では江戸東京の伝統芸能を気軽に楽しんでいただくため、毎年「伝統芸能フォーラム」を開催しています。今回は初の試みとして英語字幕も登場します。ぜひお越しください。

能楽公演 熊坂

第一部では能の魅力と鑑賞ポイントの解説に、観客の皆様も楽しめる謡の体験があります。第二部は長刀を駆使した迫力ある戦いをご覧ください。

日時 2016年1月23日(土) 14:30 開場 15:00 開演

プログラム 第一部 解説・謡体験
第二部 能 金春流「熊坂」

浪曲公演 国本武春

当日は玉川奈々福氏の代演となります。

進化する伝統芸能“浪曲”。民話「松山鏡」は、武春の引き語り×ジャック・ラングルの影絵がコラボ。また浪曲「英国密航」は明治維新の立役者、長州ファイブの物語を名人・沢村豊子の三味線に乗せてお贈りします。

日時 2016年1月24日(日) 13:30 開場 14:00 開演

プログラム 第一部 浪曲のルーツ解説・掛け声教室
影絵コラボ作品「松山鏡」
第二部 浪曲「英国密航」

チケット販売情報

【料金】各公演2,000円

高校生以下は1,000円(いずれも全席自由)

【販売場所】

- Confetti (カンフェティ) チケット予約
Web予約: <http://www.confetti-web.com/>
電話予約: 0120-240-540
(受付時間 月～金10:00～18:00)

● 江戸東京博物館1階 ミュージアムショップ 他

両日とも会場は
江戸東京博物館
1階ホールです!



オリジナル
Original

ミュージアムショップ 新商品登場!!

ミュージアムショップでは、当館でしかお買い求めにできないたくさんの商品を揃えています。江戸時代に流行した縞模様「よろけ縞」「芝罘縞」をあしらったオリジナルマグカップ(885円)はこれからの季節にふさわしい一品です。同じく縞模様のそば猪口(4種・864円)もいかがでしょうか。また所蔵品の歌川広重画「名所江戸百景」から江戸の町に生きた犬や猫、鳥などをセレクトした2016年版カレンダー「江戸の生きもの」(850円)も好評発売中です。冬から春の景色を描いたたくさんのお手ぬぐいに加え、春に向けてオリジナルストールも開発中! 皆様のお越しをお待ちしています。

※価格は全て税込表示です



オリジナル
縞模様
マグカップ

歌川広重画
名所江戸百景
「江戸の生きもの」
カレンダー





パネルディスカッション
(左から、郭館長、康館長、李副院長、竹内館長)



シンポジウム風景

International Symposium

開催
しました

日中韓博物館 国際シンポジウム

当 館は、10月28日に、「第14回日中韓博物館国際シンポジウム文化発信拠点としての都市博物館」を実施しました。このシンポジウムは、中国・首都博物館（北京）、瀋陽故宮博物院、韓国・ソウル歴史博物館との持ち回りで、当館としては4年ぶりの開催です。

今回のシンポジウムは、「都市の祭典と博物館」「都市博物館同士のネットワーク」「持続する社会と博物館」という3つのテーマのもと、各博物館の多岐にわたる活動と役割が報告されました。それぞれをご紹介しますと、第一番目のテーマ「都市の祭典と博物館」では、首都博の郭小凌館長が、市の式典会場としても同館が活用されることを紹介、ソウル歴史博の韓珍今学芸員が、ソウル市内の産業の発展と人々の暮らしの変化を扱った展覧会を報告、瀋陽故宮博の李声能副院長が、同博物院の名物の「皇室宮廷儀式公演」を市のイベントとの関連で詳細に述

べられました。

第二番目のテーマ「都市博物館同士のネットワーク」では、当館新田太郎事業企画課長が当館参画の全国歴史民俗系博物館協議会（歴史協）の発足と活動に関して、また、瀋陽故宮博の温淑萍外務部主任が国内外の博物館との共催展に関して報告を行いました。

第三番目のテーマ「持続する社会と博物館」は、2015年「国際博物館デー」のテーマでもあります。首都博の武俊玲蔵品保管部主任は、同館の所蔵資料の収集・修理・研究の継続的な取組について詳しく述べ、ソウル歴史博の禹承河学芸員は、博物館での多文化教育プログラムを紹介し、当館市川寛明研究担当係長が、昨年常設展リニューアルから「町の暮らし」の事例を発表しました。いずれの発表も各館の地道な博物館活動に基づくもので、来場の皆さんもメモをとって、熱心に聞き入っていました。

夕方のパネルディスカッションでは、当館竹内誠館長、ソウル歴史博の康泓彬館長、首都博の郭小凌館長、瀋陽故宮博の李声能副院長が登壇し、初の試みとして館長クラスのパネルディスカッションを行いました。シンポジウムの継続の成果と意義が改めて確認され、学芸員の相互派遣や共同の展覧会を実施するなどの交流の強化を目指すことで合意しました。予定時間を越えた白熱したトークに、会場は大盛り上がりでした。最後に、4館交流に関する覚書を調印し、盛況のうちに閉幕となりました。

当館では、本シンポジウムの成果を受け、各館との交流を今後も深く、共同展覧会などの開催に向けて準備を行ってまいります。多彩な博物館活動にどうぞ期待ください。なお、当館7階図書室では国際シンポジウムの特集コーナーを設け、今回の各発表の予稿集をご覧いただけます。また、各館の常設展図録なども配架しています。ぜひご利用ください。



隅田川の
魅力を
再発見!

江戸東京博物館シンポジウム「隅田川流域を考えるー歴史と文化ー」

〔日時〕 2016年3月5日(土) 〔会場〕 江戸東京博物館1階 ホール
〔定員〕 300名(入場無料・事前申込制)
〔料金〕 無料 〔締切〕 2016年2月15日(月)当日消印有効

お申し込み方法

往復はがきに、住所・氏名・電話番号を明記の上、下記までお送りください。
(はがき1枚につき1名様のみ有効) 申込者多数の場合は抽選を行います。

〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館 都市歴史研究室シンポジウム担当係

隅田川は、江戸から東京へと時代は移り変わっても、この地に住む人々からこよなく愛され続けてきました。今年度の江戸東京博物館シンポジウムでは、東京の伝統文化を育んだ母なる川、隅田川の魅力を様々な角度から検証します。皆さんのご来場を心よりお待ちしております。

TOPICS

江戸東京博物館シンポジウム「隅田川流域を考えるー歴史と文化ー」開催のお知らせ

図書室から LIVE REPORT

篤姫本、再び

NHK大河ドラマ「篤姫」の放映は2008年(平成20)。当館では特別展「天璋院篤姫」が開催されました。このとき図書室では関連する本を収集し、ご覧いただきましたが、これらの中には機関や個人の方のご厚意によりご寄贈いただいたものもありました。

図書室では今回開催の企画展「歴史をつなぐ天璋院の用筆筒」にあわせて天璋院篤姫と、特に幕末の大奥に関する本を中心に配架した図書コーナーを設けます。2008年以降に収集した本も含めて、ふだんは書庫の中に入っている本もコーナーに全部まとめますので、すぐに手に取ってご覧いただけます。皆様のご利用をお待ちしています。



TOKYO



BEIJING



当館収蔵資料の調査の様子(9月16日)

9月14日から18日まで、北京の首都博物館の学芸員を含む職員4名が来訪し、当館に滞在し、調査を行いました。
常設展と特別展「徳川の城」の視察のほか、収蔵資料の調査や当館学芸員との情報交換会を実施し、双方の館の事業の取り組みや、江戸と北京の都市比較について活発な議論がなされました。
首都博物館の企画部主任・龍霄飛(ロンシャオフェイ)さんは、展示会の実施や運営など参考になった点が多いと話し、特に収蔵品の管理については大変勉強になったとの感想をもたれました。
当館は、今後とも北京の首都博物館、ソウル歴史博物館との間で学芸員の相互派遣を実施し、共同展示会などの協議を進めていく予定です。

首都博物館(北京)の
学芸員4名が来訪しました



第49回 日本サイndeザイン 特別賞 受賞!

日本サイndeザイン賞は、1966年以来、優れたサイndeザイン作品を広く社会にアピールすることにより、その普及と啓発をはかることを目的とした賞です。このたび江戸東京たてももの園は、その活動に対して特別賞と公益財団法人日本デザイン振興会会長賞を受賞しました。多くの貴重な歴史的建造物や文化遺産が失われるなか、建造物を移築・復元するとともに、建造物に親しんでいただくための様々な普及活動や展示会を行っていることが受賞の理由です。これを励みに、今後もさらに貴重な文化遺産の保存と、建造物を活用した事業に力を入れていきます。

たてももの園 フェスティバルを開催!

小金井公園の桜が美しい頃、3月28日はたてももの園の開園記念日です。今年度は3月28日(月)にたてももの園フェスティバルを開催します。お花見とともに、多彩な催し物をぜひ楽しんでください!



催し物のご案内 冬期ふれあい体験教室

事前応募制教室

●歌舞伎の化粧をしてみよう(大人向け)

歌舞伎独特の隈取(くまどり)を体験して大江戸にタイムスリップしてみませんか?

3月5日(土) 時間/13:30~15:30

対象/高校生以上 定員/20名 応募締切/2月20日(土) 【場所/1階会議室】

※参加料無料 ※講師/ふれあいボランティア

お申し込み方法

往復はがきに住所・氏名(2名まで)・年齢・電話番号・希望講座名を明記の上、下記へ(締切日消印有効)

〒130-0015 墨田区横網1-4-1 江戸東京博物館 ボランティア事務局 ふれあい体験教室係



当日受付教室

●和算パズル

江戸時代から伝わる算術をパズルで体験しましょう。

1月9日(土)、3月5日(土)

時間/各日13:00~15:30

(受付終了15:00)

対象/小4以上

●反古紙で折る小物 —江戸のエコロジーを 見習おう—

捨てるなんてもったいない。チラシの再利用で素敵な小物がつくれます。

1月9日(土)、3月5日(土)

時間/各日13:00~15:30

(受付終了15:00)

対象/小学生以上

※いずれも参加料無料(常設展示室内で開催の教室は観覧券が必要)

※場所の表記がない場合、常設展示室5階ミュージアム・ラボで開催。 ※講師/ふれあいボランティア

●歌舞伎の鳴り物を 鳴らしてみよう

この音何だ? 歌舞伎の

効果音を鳴らしてみよう!

1月16日(土)

時間/①12:00~12:30

②14:00~14:30

対象/幼児~一般

●扇子遊びをしましょう

扇子で遊びませんか?

1月16日(土)

時間/12:45~13:45

●オリジナル紙独楽を作るう

紙テープをくるくる巻いて

オリジナル独楽を作るう!

1月17日(日)

時間/①13:30~13:50

②13:50~14:10

③14:10~14:30

④14:30~14:50

対象/5歳以上

定員/各回先着7名

●ときめきキモノ体験

洋服を着たまま着付けをします。

お気軽にご参加ください。

1月23日(土)、2月27日(土)

時間/10:30~12:00

(受付終了11:30)

対象/3歳以上 定員/20名



●如月茶席

お客様をお茶とお菓子でもてなし、解説を交えながら、茶道を楽しんで体験していただけます。

2月6日(土)

時間/①13:00~13:30

②13:45~14:15

③14:30~15:00

(整理券配布は

12:00~会場前)

対象/一般

定員/各回15名

【場所/1階会議室】

●浮世絵をくみだてよう

—「御神興」—

江戸時代から明治にかけて流行した、浮世絵。今でいう「ペーパークラフト」の元祖「立版古(たてばんこ)」。切って、折って、組み立ててみませんか?

3月6日(日)

時間/13:00~15:00

(受付終了14:30)

対象/小5以上

定員/30名

●万華鏡で遊ぼう

風景を万華鏡に! ガラス球を使った万華鏡を作ります。

3月26日(土)

時間/10:30~12:00

(受付終了11:30)

対象/小3以上 定員/15名

ミュージアムトーク

企画展

「歴史をつなぐ天璋院の用筆筒」みどころ

1月8日、15日、22日

江戸と結ぶ村と島

1月29日、2月5日

高度経済成長期の東京

2月12日、19日

江戸城と町割り

2月26日、3月4日

現代の東京

3月11日、18日

常設展示室のみどころを

学芸員が解説します。

日時/毎週金曜日 16:00から

常設展示室5階の日本橋下までお集りください。所要時間は約30分です。

表紙解説

レオナルド・ダ・ヴィンチ《糸巻きの聖母》
1501年頃 バクルー・リビング・ヘリテージ・トラスト
©The Buccleuch Living Heritage Trust

レオナルド・ダ・ヴィンチ晩期の作品です。幼子イエスが体を左にひねり、右手で糸巻を握る。左手は上部を指すように添え、その先に視線を送る。まっすぐに将来を見つめる姿が暗示されます。聖母は左手でしっかりと幼子の体をささえ、右手は不安げに差し出しています。イエスを不安げに抱くという目に見えない魂の動きが、手の動きに表現されています。



江戸東京博物館 NEWS Vol. 92

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表) ホームページ <http://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内

JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分、東口から徒歩7分

都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A3・A4出口から徒歩1分

都バス錦27・高28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2015年(平成27)12月18日(金)

編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

印刷・制作 株式会社D_CODE